

スリランカにおける高齢者福祉の現状と課題

○ウダ ゲダラ サンダニ プラティバー サマラシンハ（新潟医療福祉大学）

吉田輝美（新潟医療福祉大学）

スリランカでは高齢者の平均寿命が延び、高齢化社会に対応する公共政策の策定という課題に直面している。スリランカの老人ホームでは、宗教や考え方を尊重しながら共存できる運営についても検討する必要がある。また、いつまでも自分の家で生活できるような介護サービスなどの充実や、家族介護に対する考え方、親と子供それぞれの扶養に関する考え方を変化させていく必要があると考える。

キーワード：スリランカの高齢者福祉、スリランカ老人ホーム、宗教と介護、ダーナ

1. はじめに

スリランカは発展途上国として広く認識されており、現在高齢者の平均寿命が延びている。過去数十年で、スリランカは大きな人口動態の変化を辿った。特にスリランカの人口構造は年長的に大きく変化し、近い将来大きな問題になることが示唆される。2041年でスリランカの高齢者の人口は28%まで増加する¹。スリランカでは、60歳以上が一般的に定年退職とされているが、定年退職年齢は公共部門と民間部門では異なり、それぞれ55歳と60歳である。スリランカの平均寿命は1992年で女性74歳、男性70歳である。2025年で女性は78.5歳、男性は73.5歳まで延びると期待される²。1981年で60歳以上の高齢者人口は981,808人、2012年で2,520,573人まで増加している³。スリランカにおける人口増加は今後も続いていくと予想されている。高齢者の増加に伴い適切な福祉サービスの提供が難しくなることが考えられる。この問題を解決するためには、現在の状況で高齢者福祉制度を見直す必要がある。

スリランカは、発展途上国の中で経済的な問題があり資源が不足している。スリランカの高齢化は近い将来深刻な問題になると言われている⁴。アジアで最も高齢化人口が進んでいるスリランカは、この高齢化社会に対応する公共政策の策定という課題に直面している⁵点から、スリランカの高齢者福祉制度がうまく機能していない状況にある。今後高齢化社会が進行していくと、日本以上に家族負担が増えると予想されている。

スリランカは仏教で充実した倫理がある国であり両親、子供、高齢者、教師、僧侶との関係を大事にしている。スリランカでは一般的に、高齢者は独居ではなく子と同じ住居に住んでいる。末の息子が家を継ぎ、家長として両親の介護を行うのである⁶。

本研究では、スリランカの高齢者福祉の現状及び課題を整理し、今後必要とされる介護サービスについて

検討する。

2. スリランカにおける人口高齢化の実態と特徴

2.1 スリランカ高齢化率の推移

高齢者人口の年次推移をみると徐々に増加しており、1980年以降高齢者人口は急増している。スリランカでは、誰でも必要な医療を無料で受けられる医療サービスが実施されている。これらが平均寿命の長さに影響しているとも言われている。

2.2 定年後の高齢者の生活状況

スリランカの高齢者に提供される主な現物支給は、家族からの食料、衣類、その他の物資であり、その後家事援助が続く。スリランカの一部の高齢者は、メイドを使用しており、その内容は、ADLやIADL支援を行っている。子どもと同居する高齢の親の数は437,000人（17.5%）である。そのうち13081人の高齢者は家事代行サービスの仕事をしている。以前は多世代同居が多かったが、近年は高齢単身者も増え、高齢者の半分以上（55.6%）が世帯主として機能している⁷。再就職する意識が本人もなく、また再雇用の仕組みも整っていないため、自分の子供と生活したり、宗教の活動に参加したりしている。

2.3 介護を必要とする高齢者について

自立した高齢者の約半数が、孫の子守りをしたり、家事や料理の手伝いなどの種類の援助や、家族から食べ物/衣服をうけとっている。一方で、日常生活において介護が必要な高齢者は、同居している子供や配偶者、または息子/娘から支援を受けている。自分の子供がいなくても扶養されない高齢者もいる。介護を必要とする一つのタイプは、自分で生活できない病気に苦しむ麻痺しても一人で暮らしている者である。二つ目のタイプは、自分で生活でき一人で暮らせる者である。スリランカは仏教が広まった国で、僧侶の場合、男性しか介護できないために問題が起こる。

2.4 高齢者施設の状況

スリランカには高齢者の人権を扱う政府の組織が二つある。それは全国評議会と高齢者事務局である。全国評議会は社会福祉省をもとにして理事会は、社会福祉、保健及び財政の省庁を代表する15人のメンバーで構成されている。高齢者事務局も社会福祉省の下で機能する全国評議会の実施部門である。スリランカにはヘルプエージと呼ばれる老人ホームに支援を行う団体や、同様の活動を行うNGOが存在する。ヘルプエージとNGOは高齢者の福祉と保護のために支援している。2014年に高齢者事務局が行った調査では、スリランカには242の老人ホームがあり、そのうち238がNGOとボランティア組織によって運営され、4つが社会福祉省によって運営されていると推定されている。242の老人ホームで合計8000人ぐらゐの利用者が住んでいる⁸。

2.5 宗教と高齢者介護

スリランカにおける老人ホームの歴史はキリスト教の影響によって始まった。英国は植民地政府からの援助や、政府役人やエステート農園主などセイロン駐留英国人からの寄附を頼りに、救貧医療施設を運営した⁹。最近では、仏教徒のスリランカ人の利用も増加してきているため、仏教の考え方も徐々に浸透してきている。

スリランカでは、ダーナと呼ばれる他者に無償で物を寄付することが習慣化されている。これは日本における因果応報の考え方や似た概念である。カトリック的チャリティーとは別に、ミールスカレンダーというダーナがある。スリランカにおける仏教の考え方で、他者に物をあげると将来的に自分が困った時に、帰って来ると言うことを信じている。

3. 考察

3.1 高齢化対策の視点

スリランカは急速な高齢者化に対して、これまでの生活モデルから変化する必要がある。スリランカでは多世代同居家族での生活が一般的であったが、近年は核家族世帯が多くなり、高齢者のみの世帯や高齢者単身世帯も増加している。この点から、これまでの世帯モデルの生活意識から、高齢者単身が生活を継続するモデルを中心とした政策を構築する必要があると考える。また、宗教団体によって設立されてきたスリランカの老人ホームは、近年様々な宗教機関とNGOによって設置及び運営されている。したがって、老人ホーム入所者は、信仰する宗教ごとに入所することが多かった。しかし、高齢化による高齢者数の増加により、これまでのような信仰によって老人ホームを選択できるほど施設数があるわけではない。スリランカの多くが仏教徒であるが、それ以外の宗教や考え方を尊重しながら共存できる老人ホームの運営についても検討していくことが必要であると考ええる。

3.2 高齢者の介護のあり方

スリランカの多くの高齢者は、子供との同居を望んでいるが、家族がない高齢者は生活が苦しい状況にあることが多い。当然ながら、子供と生活をする高齢者は、子供から介護を受けることができる。しかし、介護してもらえない子供との同居ができない高齢者は、医療施設へ入院したり老人ホームへ入所したりして生活することになる。この点から、同居の子供がいない高齢者の場合には、病気や介護が必要になると、自分の家で死を迎えるまで生活を続けていくことが難しくなる。したがって、いつまでも自分の家で生活できるような、介護サービスの充実が必要と考える。

3.3 スリランカの習慣と高齢化社会の課題

宗教的信念と考え方によると、スリランカ人の老人ホームに関する印象は、否定的である傾向が見られる。高齢者自身も、定年後に自分で生活できなくなったらどうするかについて考えることなく、自分の子供が世話をするのを当然と考え、自分の将来を子供に任せている。子供側も、親に育ててもらったことに感謝しながら親の世話をすることが一般的だ。しかし、急激な高齢化と女性の社会進出によって、家庭内で親の世話をすることが難しくなっている。この点から、家族介護に対する考え方、親と子供それぞれの扶養に関する考え方を変化させていく必要があると考える。

【文献】

1. Anulawathie Menike (2014). Important features of the elderly population in Sri Lanka, Research Process. 2(2) 2014. 7-10. PP29-38.
2. Abekoon A. T. P. (1999). Sri Lankan Population and ageing. Economic Query. Central Bank, Sri Lanka.
3. Department of census and statistics, Sri Lanka 2012. (閲覧日: 2019年7月25日)
4. Anulawathie Menike (2014). Important features of the elderly population in Sri Lanka, Research
5. De Silva, I boyagoda and Ranagalage M (2008) shri lankawe wiyapath wana janaghanaya ha samaja arakshanaya, Economic Query. Central Bank, Sri Lanka.
6. K. A. P. Siddhisena (2004) Demography of ageing in Sri Lanka.
7. Population Survey report of residents in Sri Lanka 2012.
8. Wadihiti Maha Lekam Karyalaya -Annual Report 2014.
9. 中村沙絵. 2011「現代スリランカにおける慈善型老人ホームの成立」『アジア・アフリカ地域研究』第10-2号: 257-288, 2011